

令和 6 年度自己評価結果

習志野みのり幼稚園

令和 6 年度の活動を振り返り、教諭一人ひとりが自らの教育活動や状況を客観的に評価いたしましたので、その結果をご報告いたします。

前年度 3 月より新園舎での保育がスタートし、より快適な空間で園生活を送ることができるようになりました。1 学期は園庭工事のため、園庭の半分程度しか使用できない時期もありましたが、2 学期には砂場、鉄棒、大型遊具の設置が完了し、園庭でさまざまな遊びを楽しめるようになりました。

また、幼稚園の新たなシンボルになるように、と設置したオリジナル総合遊具「みのりタワー」は、すぐに子どもたちの大好きな遊具になりました。

保育に関しては、子どもの成長の度合いや自主性をより重視した活動を行うとともに、行事内容や実施時期を見直しました。その結果、これまで以上に子どもに心のゆとりや自主性が生まれ、さまざまなことに挑戦しようとする姿や楽しんで活動に参加する姿が見られました。また、そうした子どもたちの姿に感化され、教諭たちはより一層子どもたちに寄り添った保育をしようと努力していました。

社会環境の変化に伴い、保育・教育現場の環境、幼稚園に求められる役割も変化してします。そうした変化に柔軟に対応しつつ、設立当初から大切に守ってきた「みのりスピリット」を基とし、より良い保育環境の整備、更なる教育活動の充実、教師の資質向上に努め、皆様から愛される幼稚園であり続けるよう努力していく所存です。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

1. 本園の教育理念・目標

教育理念： 知育：徳育：体育の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる。

教育目標： 明るく元気な子ども

やさしく思いやりのある子ども

よく考え、工夫する子ども

2. 本年度、重点的に取り組んだ目標・計画

評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することで、全ての教諭が自園を見る目を養うとともに、外部研修・園内研修を適宜取り入れ、教育内容、教育環境の設定の改善に主体的に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領、子どもの実態をふまえた教育課程の作成、保育をする。	幼稚園教育要領に関する園内研修を実施するなど、園として職員の啓蒙に努めてきた。未だ理解の程度は個人差があるものの、全体的には理解度が上がってきている。 幼稚園教育要領に基づいた教育課程を作成することで、より子どもの実態をふまえた教育やカリキュラムを作成できるようになった。	B
子どもの実態を的確につかみ具体的な週案作成をする。	子どもたちの成長度合いや様子、行事等を考慮しながら週案を作成し、それを基に日案を考え実践している。 週案に掲げた目標を意識しつつ、その日の子どもの様子に合わせて臨機応変に対応することもできつつある。	B
正しい姿勢、バランス感覚が身につくような声かけ、取り組みを行う。	朝の集まりや話を聞くときの姿勢、食事中の姿勢に対する声かけはできている。担任による漢字や鼓笛時にも正しい姿勢を身に着ける取り組みをしている。 また、食育の一環として3学期から取り入れた「グー・ペタ・ピン」の姿勢が大きな効果を生んでいる。 専門講師による幼児体育、サッカー、剣道、新体操などの活動を通じて正しい姿勢やバランス感覚を養っている。	B
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	食事・手洗い・排泄などの基本的な生活習慣に加え、着替え・身支度などを自分でできるように年齢に合わせた指導をしている。 また、定期的に看護師や管理栄養士による特別授業を行い、保健衛生や食に関する活動も行っている。こまめに声掛けすることにより習慣化してきている。	A
安全で興味の引く保育環境を用意する。	子どもたちが安全に楽しく過ごせるように保育室や園庭、遊具等の安全管理に十分注意した。 子どもの好奇心を尊重し、学ぶことの楽しさを実感できるようにオープン教育を取り入れ、子どもたちの興味の引くコーナー作りに力を入れている。また、昨年度より第二グラウンドを活用し、緑のある広い敷地で思い切り遊ぶ時間を設けている。 各クラスでは、子どもたちが楽しく過ごせるように担任が工夫して保育を行っている。	C
子どもの良さを認めて評価する。	子どものよいところ、頑張ったところ、できるようになったことを評価し、褒めるように心がけ、実践できている。	B
日常会話、季節の歌、読み聞かせ、制作を通し表現力を養う。	季節や文化を学びながら豊かな表現力や想像力を養えるよう、子どもの成長度合いに合わせ、歌唱、絵画、制作などの活動をしている。各クラスでは、紙芝居、読み聞かせ、読書(絵本の時間)、パネルシアター、自由制作、季節の歌を歌うなど、表現力やコミュニケーション能力を育むことを大切にしている。	B
遊びを通して工夫したり協力したりする姿を見守り、援助する。	学年によって子どもへの関わり方は異なるが、基本的には子どもの想像力、自主性、協調性を尊重し、見守りつつ、時には援助をしている。 自由遊びの時間に好きなことをして過ごせるように、制作のためさまざまな材料を常備する、共同制作を行う、各種玩具や手作り玩具を用意するなど各クラスで工夫している。	B

評価項目	取組状況	評価
各クラスで起きた事案を園全体で共通理解しそれぞれの保育に役立てる。	大きな怪我・危険なことについては、園全体で共通理解し、事案に対する対応はできている。各クラスで起きた事案(ヒヤリハット)は、園全体での共通理解に至らないケースもあり、「園全体で共通理解すべき案件」の要件についての共通理解やタイムリーな情報共有などが必要である。 ケガ・病気については看護師に任せており、事案によっては看護師からタイムリーな情報発信を行っている。	C
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	教諭は、学期ごとに反省・振り返りを行い、園長にレポートを提出している。重要な事項や職員間で話し合う必要がある事項については、園として対処しているが、それ以外は個人・学年での改善に任せている。 各クラスの問題点等を他の教諭と共有し、話し合う時間を持つことも必要である。	C
各職員が研修会に参加し他の職員へ伝え、その成果を保育に生かす。	定期的に園内研修を実施したり、オンライン研修等で学んだことを話し合う機会を設けている。 オンライン形式の外部研修は、職員であれば受講可能なので、今後は副担任教諭にも受講を推奨し、園全体の保育の質の向上に努めたい。	C
園だより等をとおして幼稚園の情報を発信していく。	毎月、クラス便り・学年便り・行事予定表を発行し、幼稚園の情報を発信している。 そのほかにも、みのりっこだより(不定期)、保健だより、給食だよりがあり、園からはさまざまな情報を発信している。更に必要に応じてお知らせ(紙、れんらくアプリ)を出して、タイムリーな情報提供を心掛けている。	A

＜評価の基準＞ A:十分に達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが成果が十分でない

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価: B

各教諭が目標・課題を理解し自己評価することにより、個人の課題だけでなく園として取り組むべき課題を認識し、改善していく意識が芽生え、取り組むよう努力する姿勢がみられた。

5. 学校関係者(保護者)からの評価

保育内容、教諭との関係については、概ね満足していただいている。

- ① 教諭と子どもの信頼関係が厚く、幼稚園に登園することを楽しみにしている、と大多数の保護者が感じている。
- ② オープン保育の意義・効果を実感していただいている。
- ③ 給食の献立、ブログに関する満足度が非常に高かった。
- ④ 行事の見直しは賛否両論あるが、内容に関しては概ね満足していただいている。
- ⑤ バス通園の園児の保護者が来園するのは主に保育参観・行事に限られているため、園を知る機会が少ないと感じている方がいるように見受けられる。
- ⑥ 園庭に緑(植物)が少ない、自然と触れ合う機会が少ないと感じている保護者がいらっしゃる。
- ⑦ 個人情報保護の観点からクラス名簿の配布を取りやめたが、クラスのお友達の名前が分からないので配布して欲しい、という意見が多かった。

6. 今後、取り組むべき課題

子どもの健やかな成長を支えることができるように、「みのりスピリット」を大切にするとともに、保育や環境においてさまざまな取り組みを検討し、よりよい方向に進化できるよう努力していきたい。

全ての教諭が己自身と自園を客観的に評価できるようになり、教育内容、教育環境の設定の改善に取り組み個々人の意識レベル・資質の向上に努めるだけでなく、今後も園単位（組織）での活動、情報共有の仕組みづくりに取り組んでいきたい。

（具体的目標）

- ・ 安全管理

ハード面・ソフト面から安全について検討し、より一層安全な保育を実施できるよう安全管理に努める。

- ・ 教諭の資質の向上

オンライン研修のさらなる充実化を図り教諭が研修に参加しやすい環境を整えるとともに、園内研修を実施するなど、情報提供・啓蒙活動を行い、教諭一人ひとりの資質向上に対する意識付けをしたい。

- ・ 情報の共有化

IT化を進めながら、クラスで起きた事案、トラブル、怪我や病気等保育に関する情報の共有化、研修資料等保育技術に関する資料の共有化を図る。

- ・ 花育の取り組み

花や緑に親しみ、育てる機会をととして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む。プランターで野菜や花を育て、収穫した野菜を給食で提供するなど、直ぐに取り組めることから実施していきたい。